



2019. 5. 18
No.87

結
yui

発行「憲法9条の会つくば」
〒305-0005
つくば市天久保 1-10-12 1-401
Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>



憲法フェスティバル 2019

憲法はウソも
戦争も許さない

憲法記念日の5月3日、水戸千波公園はなみずき広場で恒例の憲法フェスティバルが開かれました。つくばからはバスで約20人、自力で参加された方約10人の約30人の参加でした。フェスタ全体の参加者は約1200人程で家族連れの姿が目立ちました。

午前中の各地9条の会の交流会では、3000万署名の取り組みを中心に活動報告がなされ、5月3日を前に署名4000筆を達成した9条の会つくばからは、共同代表で、署名集約係りでもある武田照子さんが報告を行いました。そのほか、冤罪を考える企画や沖縄の闘いを知る企画など多彩なテント企画があり、参加者との交流が行われました。

9条の会つくばは、文化的でうるおいのある企画がほしい、との考えで10年近く前から「憲法絵手紙展」の企画を担当しています。新婦人つくば支部の協力のもと、出品点数も毎年最高で、入賞する方も多いです。今年は優秀賞に児玉尚子さん、入賞に大里八重子さん、平島千恵子さんの3人が表彰されました。また、昨年「絵手紙体験講座」が開かれ参加者からは大変好評を載っています。今年は午前中の早い時間から体験希望の方が集まり、いつも満席に近い状態でした。指導は新婦人つくば支部長の横井さん、アシスタントは絵手紙展入賞常連の児玉さんです。初めてでも上手に書かれる方が多く感心してしまいます。

また、つくばは憲法川柳に応募される方も大変多く、今年は渡辺千寿さん、澤田紀一さん、佐藤美恵子さんが入選、表彰されました。特に、渡辺さんは3特選の一つに選ばれました。入賞3人の他、7人の方の作品が佳作に選ばれています。絵手紙や川柳への応募で、文化的な企画を楽しみながらフェスタを支えているのがつくばの9条の会の皆さんです。

講演は、日本在住30年以上のアメリカ人映画監督リラン・バクレー氏でした。つくばの皆さんは、昨年度の設立のつといで上映した「ザ・思いやりパート2」の監督としてすでにご存知のことでしょう。講演のテーマは「20××年～憲法が変えられた日本」で、母国アメリカの例を引き「一度始まれば止められないのが戦争の実態」「武力で解決ができると思えば、戦争が繰り返される」と話しました。まとめは2面に掲載しますが、映画でも示されたように大変ユーモアのある方で、平和憲法のある日本が本当に好きなのだということがよく分かりました。最後に「日本国憲法を次の世代に引き継ぐ努力を続けよう」との集会アピールを採択し、「輝け9条」「生かそう憲法」と書かれたプラカードを一斉に掲げました。（穂積 記）

映画「ザ・思いやり」

リラン・バクレー 監督講演

バクレー監督は、神奈川県厚木基地周辺のいくつかの市に38年間住む在日アメリカ人。

厚木基地の夜間騒音で悩んだこともあったが、最初のうちは米軍に悪感情は持っていなかった。しかし、イラク戦争時、インターネットで米軍のヘリが丸腰の民間人を銃撃するシーンを見て、母国アメリカがやっていることが分かった。その後沖縄に行き、日本の米軍に対する思いやり予算のことを知り、映画にして沢山のの人に実態を知ってもらいたいと考えた。今までに550カ所上映、3万8千人が見た。社会問題に関心のない若い人も見た。アメリカは1898年の第1次世界大戦からずっと戦争をしている。「戦争ができる国」だ。日本も戦争ができる国になれば、確実に戦争が始まる。戦争が始まったら、反戦の声より戦争賛成の声の方が大きくなり誰も戦争を止められない。アメリカは第1次世界大戦の前、たった4年間で戦争ができる国を作り上げた。そのやり方は、国民全体から国が徴税し、その金で軍艦や飛行機や武器を作り、次に敵を作る。反戦の声には、表現の自由を奪う法律を作り、最後に徴兵制を作る、というやり方だ。アメリカの国家としての軍事費は年間102兆円、莫大だ。州単位で見てもカリフォルニア連邦政府の予算は5割が軍事関係予算だ。軍事産業が集中しているからだ。映画「ザ・思いやり」をアメリカで上映すれば、米軍は撤退するのでは？という日本人がいるがそれは無理。軍事産業がはびこるアメリカは戦争をやめない。新しい映画では「憲法を変えられ戦争ができる国になった日本」を描く。2021年マラッカ半島沖で米軍と自衛隊が戦争に巻き込まれる設定。自衛官の戦死者が出て、日本国民は一挙に参戦モードになり、誰も戦争を止められなくなる。

9条を守る活動はなかなか難しいし、勝利が見えてこない思いだろう。活動する人も高齢者が多い。でも、毎日でも活動できる高齢者パワーは強い。集会やデモ、映画や宣伝などあきらめずに、チョコチョコやっていたら成果が見えてくる。日本の国民はおかしな「愛国心」があまりないように思える。本来平和的な



民族だと思うので、平和作りが一番できるのは日本ではないか、という気もする。しかしアメリカや米軍と一緒にやる方がいいことだと考えて入る人はまだまだたくさんいる。米軍は演出が上手だ。米軍が本当は何をやっているのかをよく分かってもらい、戦争の愚かしさと平和の大切さを分かってもらえれば、憲法9条を守り戦争への道を止めることができると思っている。

(穂積 記)

憲法フェスティバル 2019

テント企画「9条の会・3000万署名交流会」

爽やかな風が頬をなぞる5月3日、憲法フェスのテント企画として、毎年恒例の「9条の会・3000万署名交流会」が開かれました。常磐道の混雑で時間までに到着できなかった人もいましたが、参加者は延べ約50人に達しました。交流会では、田村武夫茨城県9条の会代表から安倍政権の「参議院選挙における改憲の執念」と「改憲への動き」、それらを抑え込むうえで3000万署名活動が重要であるとの説明がなされ、その後、各地の9条の会の13人から「活動状況、直面している問題、新たな試み」などについての報告がありました。

参院選挙に向けては、「阿見町9条の会」から出された「野党は共闘して衆参両議院の候補者を統一せよ」との要望を立憲野党に打電する提案を全員一致で承認しました。問題点としては「若い世代の参加をどう実現するか」が多く出されたと思います。(長田)

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2019年5月8日現在

総数 989名 (市内 712名)

◆3000万署名 5月8日現在 4035筆

当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

門脇教育長との懇談と 金子市議の一般質問

つくば市では教育大綱の策定を進めています。「9条の会つくば」の世話人の一人として、この教育大綱に「平和教育の推進」の一文が入るように願っています。3月11日に門脇教育長と「9条の会つくば」世話人6名がつくば市の平和教育について懇談の時を持ちました。内容は「結」にて後日報告いたします。また当会の賛同人である金子和雄市議は2018年12月の議会で「平和事業」について質問をしています。国際平和デー、通年の平和展示事業、青少年ピースフォーラムの取組などについて質問しています。詳しくは「つくば市議会」のホームページより「議場録画放映」をご覧ください。(阿部真)

3000万署名戸別訪問 小白裕と千現1丁目

▼4月10日、小雨で手がかじかむ寒い中、小白裕のグリーハイツ団地の約150軒を5人(新婦人3人、9条の会つくば1人、年金者組合1人)が二組に分かれて3000万署名を行いました。あらかじめ地元のAさん、Sさんのお名前を載せた案内文と署名用紙をポストインしました。古くからの住宅のためか、玄関先に署名用紙を出してくださる方も多く、雨の中大変でしょうと署名してくださる方など、元気をいただきました。ポストイン時の4筆と併せて39筆(9条の会12筆、新婦人27筆)。谷間に植えられた色とりどりの花モモが見事でした。

4月23日、千現1丁目約100軒の1戸建住宅を対象に戸別訪問署名を行いました。参加者は5人(9条の会つくば3人、新婦人2人)で3組に分かれて訪問しました。地元のUさん、Kさんなど3名のお名前を載せた案内文と署名用紙をあらかじめポストインしての行動です。Uさん宅に署名用紙を届けてくださるご近所さんもおられました。当日の行動にも参加されたUさんとご近所の方々とで話が弾みました。署名は23筆(9条の

会つくば15筆、新婦人8筆)でした。(野崎)

拡大する軍事予算、国民 生活への影響を考える 学習会

4月20日(土)、松代交流センターで「拡大する軍事予算、国民生活への影響を考える」と題する学習会を開きました。講師は東京新聞編集局社会部長の杉谷剛氏。「改憲論議の先を行く軍拡～日米軍事一体化を進める安倍政権～」と題し、「東京新聞」が2018年10月29日から開始したシリーズ「税を追う」の内容を中心に、安倍政権が就任以来、毎年軍事費を拡大してきたそのプロセスと、その中で日米が軍事的に、いかに一体化を進めてきたか、について解説して下さいました(講演の詳細は、次号の結で報告する予定です)。

参加者は総数55人。憲法9条の会つくばの賛同人だけでなく、土浦・阿見・常総・取手・守谷・つくばみらいの各市と町からも参加者がありました。軍拡を先行させて名文改憲の実績作りを狙う安倍政権への批判の強さを示しています。(長田)

2019メーデー

4月27日、第90回つくば中央メーデーが中央公園で開催され、参加者は550人でした(実行委員会発表)。今年は労組から、10連休と重なり参加呼びかけが難しいとの声が多かったため、異例の開催日になったとのこと。前日からの雨も、開会のころには止みました。来賓や参加団体からは「8時間働けば安心・安全に暮らせる社会を」「東海第2原発再稼働反対」「憲法9条を守ろう」等などの訴えがありました。当会の決意表明は賛同人の片平さんが行い、太鼓演奏の法被衣装で登壇し、とても分かりやすいお話でした。デモ行進の後には、団体ごとに昼食をとりながらアトラクションを楽しみました。当会も、今年は手作りのおにぎりなどを用意し、元共同代表のTさんも参加され交流を深めました。会場での3000万署名行動で61筆の署名を頂きました。

(武田照子)

3000万署名、目標の4000筆達成！

～安倍9条改憲阻止まで、こつこつと～

2月22日「九条の会」は「5月3日の憲法集會に署名を持ち寄り、安倍改憲NO!の声をあげる総決起の日にしようではありませんか」との声明を出しました。

当会では、それまでの目標を4000筆とし、4月27日メーデー会場での署名行動で達成(4035筆)しました。また、昨年9月の全国市民アクションの「全国一斉署名行動週間」に対応し、従来の街頭署名に加え、戸別訪問による署名行動をスタートさせました。その後、市民アクションつくば連絡会との共同行動として継続して取り組んでいます。安倍9条改憲を阻止するまで、こつこつと市民に訴えていきましょう。(武田)



映画『記者たち』 ～衝撃と畏怖の真実～

2017年／アメリカ／91分
ロブ・ライナー監督

冒頭、退役軍人聴聞会で、脊椎を損傷して車椅子に乗った軍服姿の黒人の若者が証言台に着く。9.11を目の当たりにして「祖国が攻撃された」という愛国心から軍に志願して入隊した。アフガニスタンがどこにあるかも知らないのに。彼は証言台で語る——「なぜ、戦争に？」

ブッシュ政権は、アフガンのビンラディンとイラクのフセインを無理に結び付け、北朝鮮・イラクとともに「悪の枢軸」と位置付けるイラクとの戦争を画策する。「対テロ戦争」と宣伝しながら、始めから狙いはイラクにあったのだ。ペンタゴン（国防総省）でない人間が、大量破壊兵器の保有を口実にして、イラク侵攻の作戦を決める。（映画の副題「衝撃と畏怖」は、その作戦名である。）

アメリカの大手新聞は、政府の発表をそのまま報道するだけだった。「米国の重大な脅威」という論調が、国民の愛国心を煽り立てる。そんな中、ナイト・リッター社のワシントンDCの記者たちは、それに真っ向から抗う批判記事を発表し続けた。支局長ジョン・ウォルコット（ロブ・ライナー監督自身が演じる）は言う。

「記者は必ず問え——それは真実か、と。」

「他のメディアが政府の広報に成り下がるなら、やらせておけばいい。我々は、我が子を戦場にやる者たちの味方なのだ。」

「我々には、基地のある町に読者がいる。」

しかし、傘下の新聞社に記事の掲載を拒否されたナイト・リッターは、世間の潮流から孤立していく。



この時、イラクとの戦争はもはや避けられない情勢になっていた。副大統領は嘘を言って、議会は大統領に開戦の決定を下す権限を与えた。政府内には、秘密の戦略室が設置される。

戦争はビジネスである。すべての情報は盗聴され、操作される。そして、ブッシュ政権は、大量破壊兵器が存在する証拠がないまま、国連安保理決議を行き詰まらせ、イラク戦争を遂行する。「戦争はしたくてするわけじゃない」と言いながら。

「愛国者」の国民は政府の意のままの大新聞の報道を信じ、その新聞は売れる。それでも、ナイト・リッターの記者たちは粘り強い取材を続け、政府の巨大な嘘を暴こうとする。国家権力の中にも、少数の、匿名で正しい情報を提供しようとする者がいる。揺るぎない「真実」を世に知らしめるために…。

アメリカ軍の攻撃でイラク政権は倒れ、フセインは死刑となる。しかし、戦争によって失われた命は、アメリカ兵4千数百、民間人は60万人以上とも言われる。大量破壊兵器は、「ラクダの尻の穴の中まで調べた」けれど発見されなかった。そしてイラクでは、それまで抑圧されてきたシーア派によるスンニ派狩りが始まり、治安が悪化する。イラクはその後、内戦状態に突入する。

「戦争」とは「はじめに開戦ありき」で突き進むものであり、「なぜ」は無理にでもこじつけられる。戦争によってどれだけのものが破壊され命が失われようと、戦争を始めた者は関与しない。一つ一つの「事実」を確かめ「真実」が何かを判断することをしないマスメディアも、その誤りを検証したのは「戦争」が終わってからである。

“疑う知性”が必要なのは、記者たちに限ったことではない。（後藤）

行動予定

- 5月18日(土) 13:30～世話人会・結87号発行 松代交流センター
- 6月3日(月) 13:00～13:30 アベ政治を許さないスタンディング つくば駅A3出口付近
- 6月9日(日) 12:00～13:00 9の日署名行動 アルス前
- 6月15日(土) 10:00～事務局会 市民活動センター(予定)
- 6月30日(日) 10:00～12:00 つくば母親大会平和分科会担当
- 7月3日(水) 13:00～13:30 アベ政治を許さないスタンディング
- 7月9日(火) 12:00～13:00 9の日署名行動 アルス前(予定)
- 7月20日(土) 13:30～世話人会・結88号発行 並木交流センター

インフォメーション

◆6月8日(土) 前川喜平講演会「こども・いのち・ゆめ」
14:00～16:30 牛久市中央学習センター文化ホール
主催：憲法9条牛久の会＊チケット取扱い穂積(090-6492-5378) 阿部(080-4795-1059) 長田(090-784-6599) 前売り700円 当日800円

◆6月16日(日) 孫崎享講演会「日本の安全保障と東アジアの平和」
14:00～16:40 つくばイノベーションプラザ大会議室

主催：研学9条の会 参加費500円(当日集金)

◆6月16日(日) つくば母親大会分科会「幼児」「介護」
10:00～12:00 まつぼっくり保育園 参加費：1分科会500円

◆6月30日(日) つくば市母親大会分科会「教育」「食」「平和」
10:00～12:00 島名杉の子保育園 参加費：1分科会500円